

小規模企業景気動向調査

[平成22年2月期調査]

～一服感を示すものの、デフレの影響で伸び悩む小規模企業景況～

2010年3月29日
全国商工会連合会

<調査概要>

- 調査対象：全国約300商工会の経営指導員
- 調査時点：2010年2月末
- 調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…業況DIは微増、採算面で伸び悩みが目立つ…◇

2月期の小規模企業景気動向調査では、産業全体の業況DI(景気動向指数・前年同月比)は、▲56.6と前月調査に比べ2.3ptの改善という結果となった。中国向け輸出が堅調な製造業や年度末の需要期に当たる建設業、エコポイントの駆け込み需要で小売業での持ち直しが見られたが、サービス業においては、伸び悩みが続いている。

<製造業> ◇…受注等で改善を示すも、厳しさが続く採算DI…◇

製造業DIには持ち直し傾向が現れている。自動車部品製造業、液晶等電子部品関連業、パワーショベル等建設機械関連業等で受注が上向いた。「中国での生産が好調らしく、部品の注文が上向いている。」(建機部品製造)と中国での需要拡大の恩恵を取り入れた業種では堅調を伝える声が聞かれた。一方で、「大手取引先からの値引き要請により、利益率が悪化している」(自動車部品製造)と、依然取引条件の悪化が続いている。

<建設業> ◇…季節的要因により上向いた建設業…◇

年度末が近づき、官公庁工事を中心に受注が増加している。前途金の入金等により資金繰りも若干改善された模様、「受注は増えたものの、落札単価が下落している」、「競争激化で利益が出ない」と、利益率の低下の影響を指摘する声は大きい。しかし、戸建住宅においては、市場自体が縮小している上に「プレハブ工法を採用し、低単価の大手住宅メーカーに太刀打ちできない」と、木造軸組構法等の在来工法を採用する地方の小規模建築事業者は、苦戦を強いられている。

<小売業> ◇…消費者の買い控えが響く小売業…◇

家電等耐久消費財の小売業からは持ち直しの声が聞かれる。バンクーバーオリンピック効果や4月からエコポイント制度が変更されることに伴う駆け込み需要の影響で、「薄型テレビの売り上げがこの時期にしては良かった。」(系列電器店)とのこと。しかし、衣料、食品等多くの小売業者は、デフレの進展及び大型店との価格競争によって、苦しい状況に追い込まれている。

<サービス業> ◇…売り上げDIの悪化が目立つサービス業…◇

顧客の消費抑制傾向は依然根強く、特に売り上げDIの悪化が目立っている。また、東北、北陸地域を中心として大雪の影響は大きく、観光業においては、「宿泊客が激減した」(民宿)と不振を伝える声も大きい。さらに、ビジネス目的の宿泊需要も減少し、「工事の減少で、職人の長期滞在が無くなった。」(旅館)との声が聞かれる。一方で秋田県からは、「韓国ドラマのロケ地になったため、韓国人観光客の増加が見られた。」との声が伝えられている。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比
売上額	▲52.7	▲52.1	0.6	▲40.8	▲37.6	3.2	▲53.4	▲50.5	2.9
採算	▲51.7	▲51.8	▲0.1	▲42.1	▲42.0	0.1	▲60.3	▲59.3	1.0
資金繰り	▲53.6	▲52.1	1.5	▲48.4	▲41.7	6.7	▲63.3	▲61.0	2.3
業況	▲58.9	▲56.6	2.3	▲50.5	▲47.5	3.0	▲65.9	▲63.2	2.7

業種	小売業			サービス業		
	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比
売上額	▲57.5	▲56.6	0.9	▲59.1	▲63.6	▲4.5
採算	▲52.5	▲53.8	▲1.3	▲52.0	▲52.0	0.0
資金繰り	▲54.0	▲54.6	▲0.6	▲49.0	▲51.2	▲2.2
業況	▲59.4	▲57.3	2.1	▲59.5	▲58.6	0.9

注) DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。